

投入額は調査5回で最低に 大多数に理解された「節電」

日遊協の「2011年パチンコ・パチスロファンアンケート調査(ホール来店客調査)」が、3月15日の第6回定例理事会での承認を受けて公表された。調査の目的は、ファンのプレー動向の変化と、ニーズ・満足度・評価など意識動向の変化とを把握・分析し、今後の業界各分野での運営と発展に役立てるため。全国142ホール(43社)で2557人の有効回答を得た。

調査結果では、若者中心にパチスロ回帰の傾向がうかがえた。1回当たりの上限想定額(1万7000円)と実際の投入額(2万400円)はいずれも過去5回の調査で一番低かった。ホールに行く目的では「実利」より「レジャー」に軸足を置くファンが増えていた。低価格台が一定の評価を得ていた。東日本大震災でのホールの節電や社会貢献活動が、大多数のファンから理解された。(報告書は会員向けに日遊協ホームページにアップされる)

アンケート調査実施要領

- 実施時期 2011年12月上旬～2012年1月上旬
- 調査対象 全国の日遊協加盟ホールの来店客、及び都遊連青年部会、九遊連青年部会の関係ホールの来店客
- 協力ホール数 43社142ホール
- 有効回答 2557人
- 調査方法 ホール社員による来店客への聞き取り、又は休憩スペースなどで来店客自身による記入
- ファンの基本特性

回答者の男女比は男性64%、女性36%で過去の調査と似た構成。回答者の平均年齢は41.8歳で過去の調査とほぼ同じ。パチンコ派(パチンコだけ、又はおもにパチンコでプレー)の平均年齢は48.2歳で、若・中・高の各年代にまんべんなく分布している。パチスロ派(パチスロだけ、又はおもにパチスロでプレー)は平均36.1歳と若く、30代までが70%を占める。

職業別では勤め人が41%で最多。パート・フリーター17%、専業主婦12%、自営・自由業と無職が共に10%弱、学生3.5%の順。ただしパチスロに限ればパート・フリーター、学生が増える。

表1

パチンコか
パチスロか

若者中心にパチスロ派5%増

パチンコ派48%（前回52%）、パチスロ派25%（同20%）、両方派25%（同26%）で、ここ数年減少傾向にあったパチスロ派が増えた。全体としてパチンコ派の多いが、パチスロ派は男女とも10・20代に多く、一方で同世代のパチンコ派・両方派が減っているところから、若者中心にパチスロ回帰の傾向が見える。

パチンコとパチスロのどちらをしているか

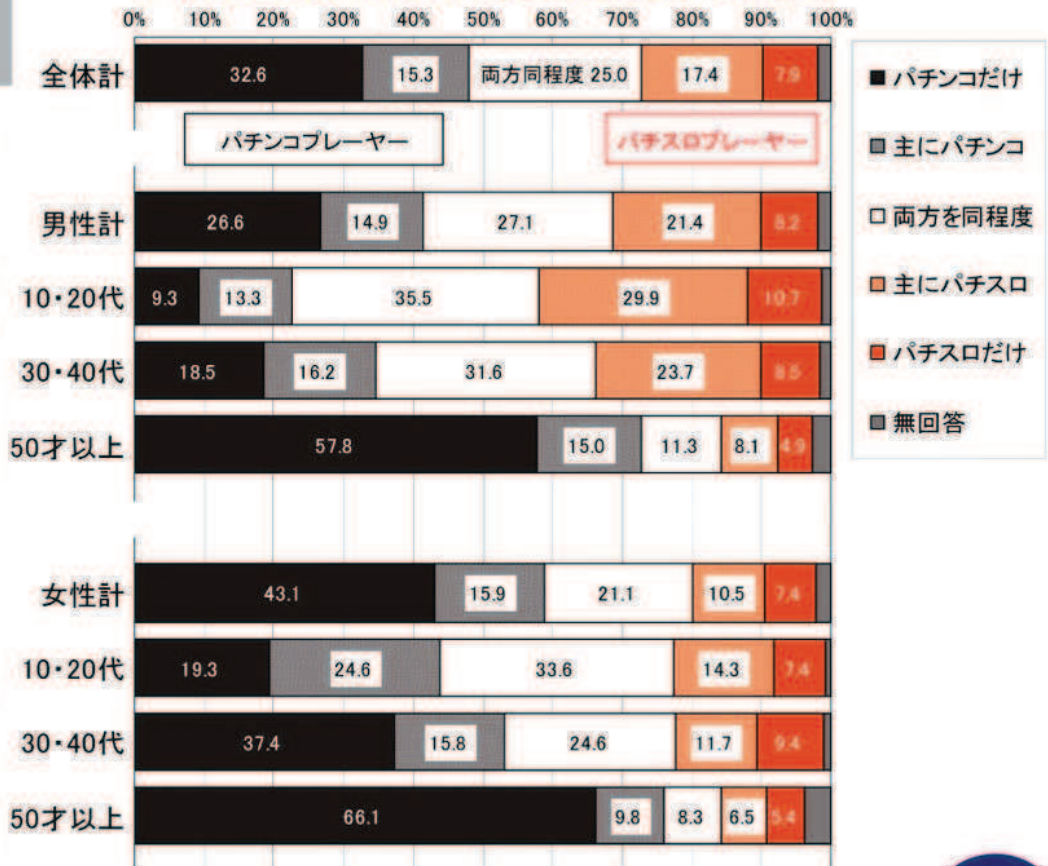


表2
通常台か
低価格台か

プレーするのは通常台か低価格台か

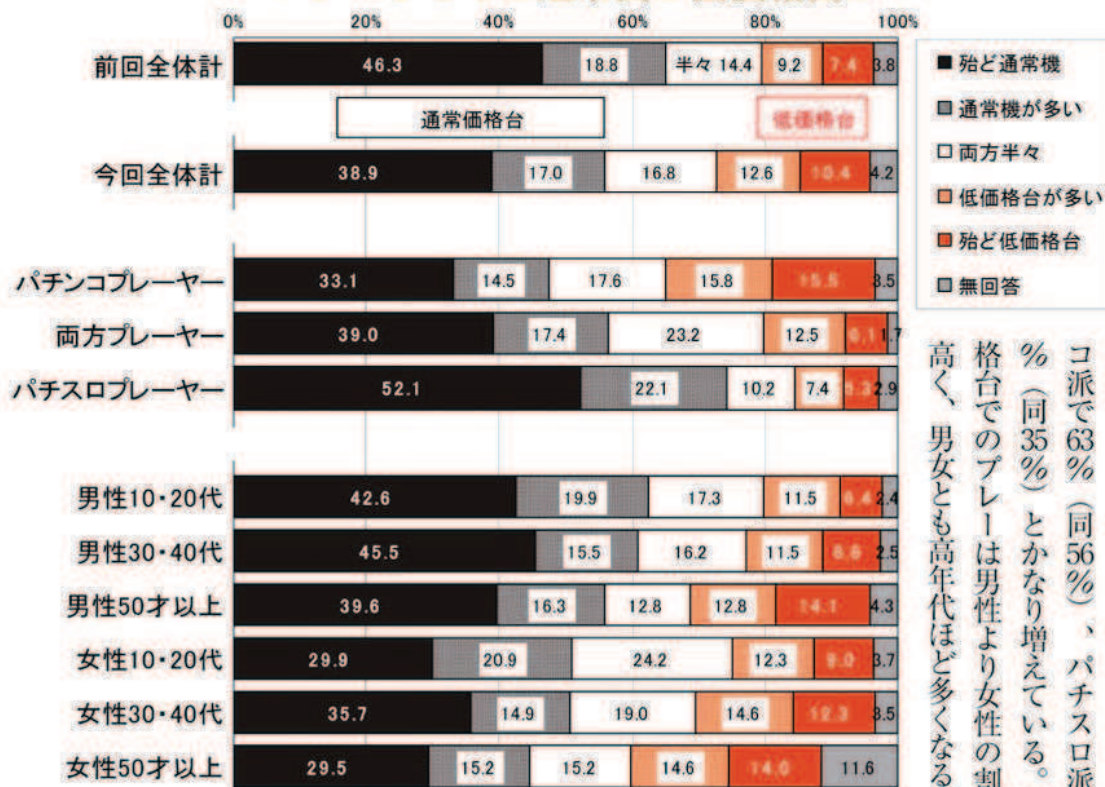
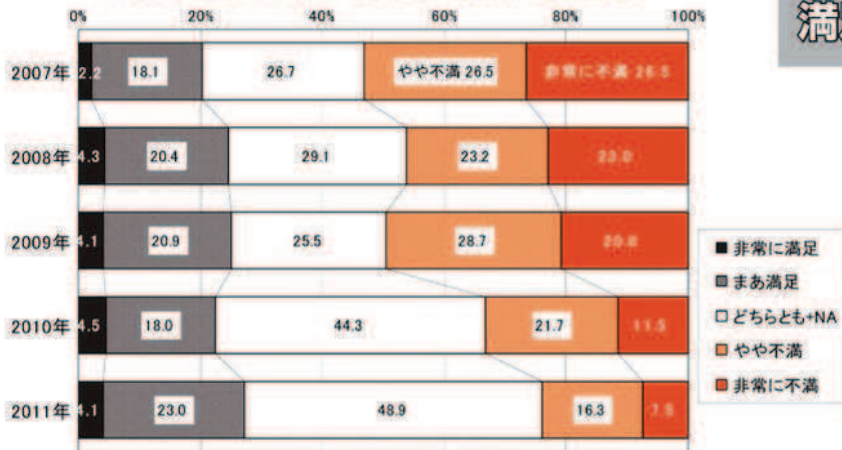


表2

女性、高年代など着実に「低」へ

低価格台中心にプレーする人はパチンコ派31%（前回23%）、パチスロ派13%（同5・6%）で多数派ではないが着実に増えている。また、（低価格台でのプレーがメインでない人も含めて）低価格台でプレーすることのある人はパチンコ派で63%（同56%）、パチスロ派で46%（同35%）とかなり増えている。低価格台でのプレーは男性より女性の割合が高く、男女とも高年代ほど多くなる。

パチスロプレイヤーの「今の台に対する満足度」の推移



今の台に対する満足度

表3

ゲームとして面白くなった

パチンコ、パチスロとも半数近くは「どちらともいえない」だが、パチンコ派は満足34%、不満18%、パチスロ派は満足27%、不満24%と、いずれも満足が不満を上回った。このうちパチスロ派では不満の比率が前回から減り始め、今回さらに低下した。

両派とも満足している理由は「ゲームとして面白くなった」が圧倒的に多かった。逆に不満の理由の第1は「大きく勝てなくなった」だが、この不満を挙げる人の比率は年々低下しており、ゲーム性の向上でギャンブル性の低下をカバーする傾向がうかがえる。

表4

ホールに行く目的

レジャー派62%と漸増

レジャー目的派62%、実益追求派21%、中間派(実益を兼ねるもあくまでレジャー)14%という構成で、レジャー目的派が漸増、実益追求派が漸減の傾向にある。賭け事という気持ちやファン心理の基軸にあるとしても、軸足は実益よりレジャーに置く人が遙かに多く、その傾向が強まっている様子が見られる。業界の健全レジャー化の方針が浸透しつつあると見られる。

ホールに行く目的の経年変化

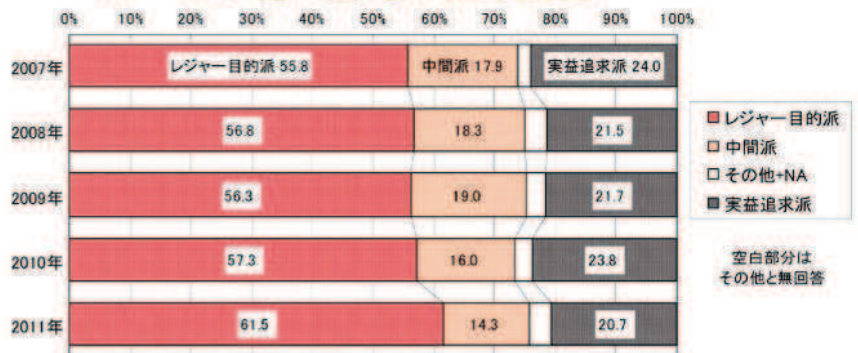


表5

自分にとってパチンコ・パチスロは

熱心なファンほど「楽しみ」

「二番の楽しみ」15%、「大事な楽しみ」40%と、ファンの半分強が生活上の大きな楽しみと位置づけている。キャリアの長い人、頻度の高い人、投資金額の多い人ほど楽しみと思う傾向が強い。「なくても困らない」という人は1割だった。

自分にとって「パチンコ・パチスロ」とは
どういうものか
(全体計)

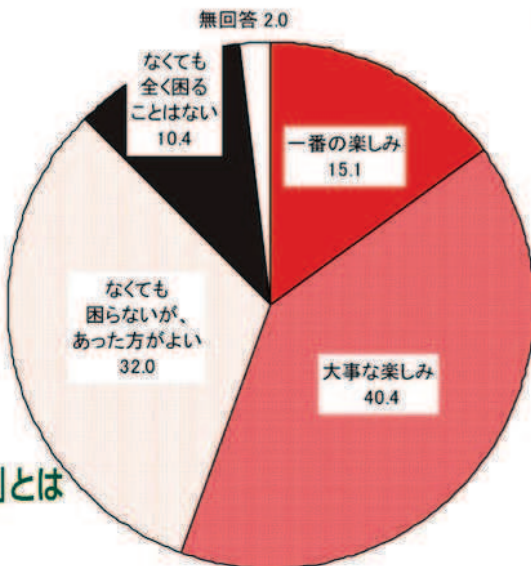


表6

来店頻度と プレー時間

**週1回以上が
8割を占める**

果的な対策の1つになると思われる。来店1回当たりのプレー時間は、パチンコ3・9時間、パチスロ4・1時間とこれまでと大きな変化はない。

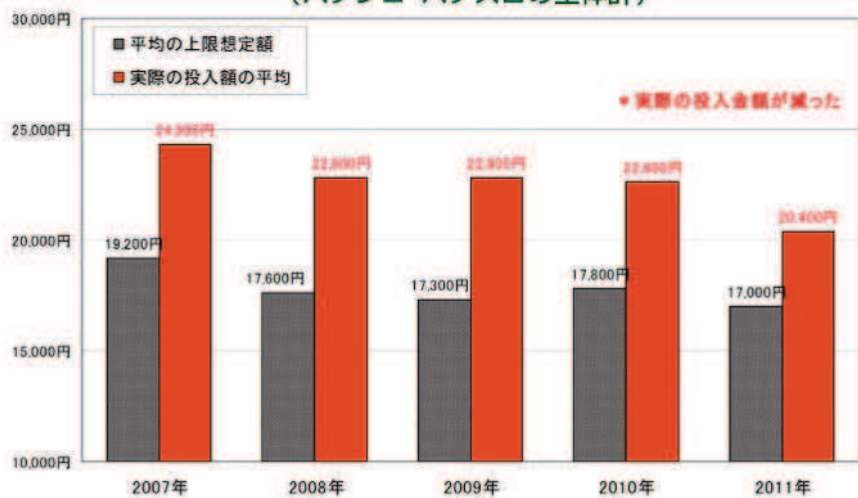
来店頻度は平均週2・9回と非常に高い。高頻度（「ほぼ毎日」「週4回以上」）の人だけで34%、週1回以上の人で8割を占めている。ただ、高頻度の人には減少傾向が見える。

高頻度の人が多くに多いのは男女とも50歳以上の高齢層と、投入金額3万円以上の高額投入者だが、高齢層は高齢による自然減、高額投入層は景気の影響を受けやすい。時々の社会変動の影響を最小限に抑え、長期安定した客数を確保するためには、バックに低価格ファンを多く抱えておくことが大切で、低価格台の設置によるプレー多様化は効果的な対策の1つになると思われる。

ホールへの来店頻度(当該店以外でのプレーも含む全体プレー頻度)

調査年次	ほぼ毎日	週4~5回	週2~3回	週1回	月2~3回	月1回	2~3ヶ月に1回	半年に1回	年に1回	無回答	平均(回/週)	週2回以上プレーする人(累計)	週1回以上プレーする人(累計)
2007年	19.5	19.3	30.7	13.4	8.0	3.5	1.1	1.4	1.2	1.9	3.1回	69.5%	82.9%
2008年	16.4	15.9	28.6	15.8	11.0	6.1	1.5	0.8	1.9	2.0	2.7回	60.9%	76.7%
2009年	19.0	17.0	30.3	13.2	12.8	2.8	1.0	0.6	1.1	2.1	3.0回	66.2%	79.5%
2010年	22.4	15.9	25.9	19.2	9.3	2.5	1.6	0.7	1.5	1.0	3.1回	64.2%	83.4%
今回	19.9	14.2	24.6	20.9	12.0	3.0	1.6	0.9	1.2	1.8	2.9回	58.7%	79.6%
(累計)	34.1	58.7	79.6	91.6	94.6	96.2	97.1	98.3	100.0				

「上限想定金額」と「実際の投入金額」の平均金額の推移 (パチンコ・パチスロの全体計)



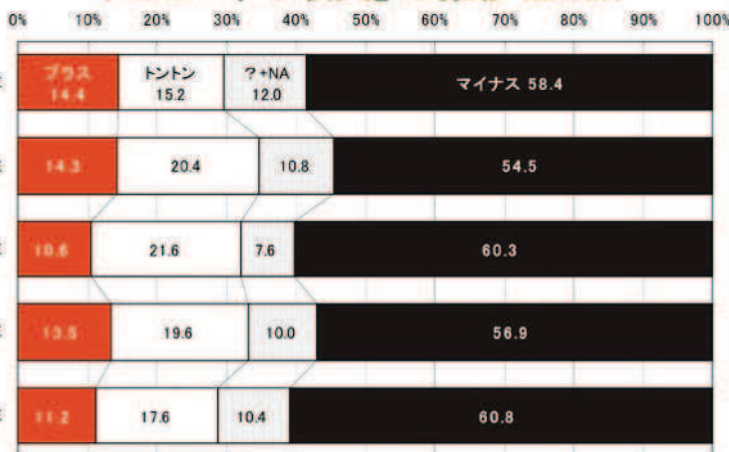
1回当たりの投入限度と想定している金額は1万7000円で、4年前(1万9200円)より約12%減った。実際の投入金額は2万4000円で、4年前(2万4300円)より16%減った。経済的な要因とともに、低価格台の普及も関係があると思われる。実際の投入金額が上限想定金額より2~3割多いのは、上限を決めない人がある程度いるためで、多くはほぼ想定金額程度で遊んでいると思われる。

投入金額と収支

表7,8

4年前より16%減の2万400円

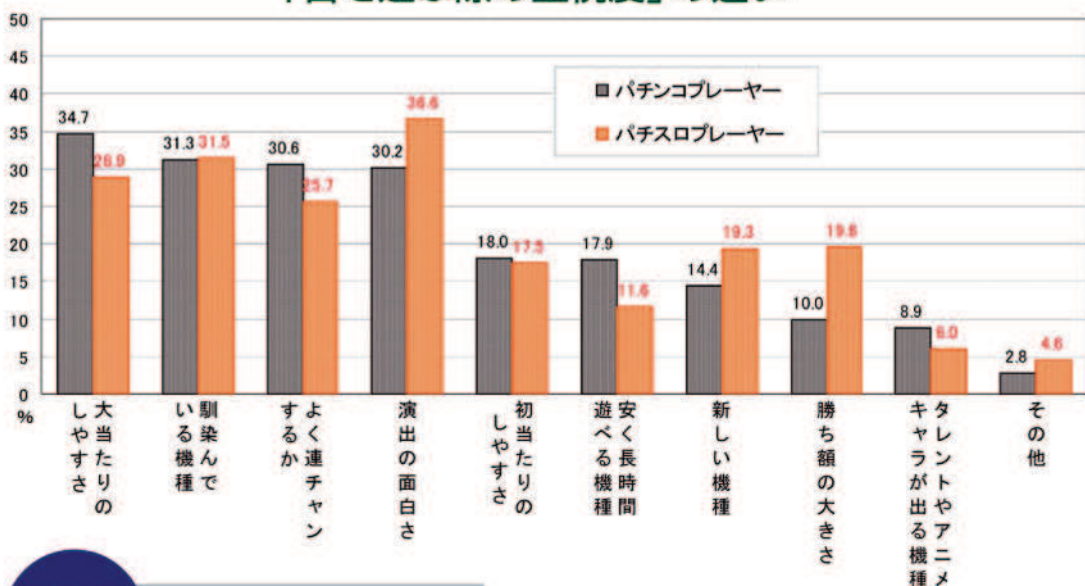
「ここ1年の収支」の推移(全体計)



低価格台は8割が 1万円以下

低価格台プレーヤーは実際の投入金額で1万円以下に8割近くが集中している。プレー頻度に変化がないので、1人当たりの投入金額の低下はホールの売り上げに影響を与えている。初当たりまでの投入限度と想定している金額は9800円で前回(1万2000円)より若干低下した。収支は全体として「マイナス」が61%、「トントン」が18%、「プラス」が11%だが、プラスとトントンが減る傾向にある。

パチンコプレイヤーとパチスロプレイヤーの「台を選ぶ際の重視度」の違い



どの台を選ぶか

表9

パチスロ派は「演出の面白さ」

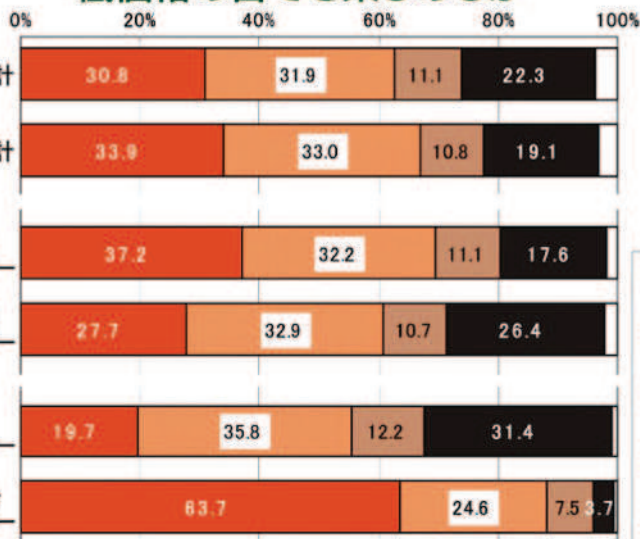
台を選ぶ際に重視するのは、パチンコ派、パチスロ派共通で「演出の面白さ」「大当たり確率」「馴染んでいる機種」「連チャン」の4要素だが、とくにパチンコ派で「大当たり確率」「連チャン」、パチスロ派で「演出の面白さ」の重視度が高い。

表10

低価格台

低価格の台でも楽しめるか

「低価格台は物足りなくて遊ぶ気がしない」はパチンコ派に18%、パチスロ派に26%いるが少数派で、次第に減ってきている。8割近くは「十分に楽しめる」「長時間楽しめる」「資金がないときに助かる」など、一定の評価をしている。



- 十分楽しめる
- 物足りない面があるが長時間楽しめる
- かなり物足りないが少資金で助かる
- 全く物足りなくて遊ぶ気がしない
- 無回答

次第に減ってきた否定意見

台への要望

低価格台中心のプレイヤーは「ゲームの面白さ」「安く遊べる台」への要望が強いが、出ることへの期待感も低いわけではなく、出し方とゲームの面白さのバランスの取り方が重要と思われる。

パチンコ・パチスロ共に「短時間あるいは1回の大当たりで出る量を増やしてほしい」という要望が多く、出玉の多さはファンの永遠の期待といえる。パチンコでは「潜伏やモード移行を減らしてわかりやすく」がトップで、ファン心理が勝つことだけではない方向に向かっているように思われる。「今のままでいい」は2割前後で、何らかの改善要望を持つファンは多い。

1回の大当たり
出玉量を
増やしてほしい

安心して楽しめない理由 (通常台・低価格台のプレーヤー別)

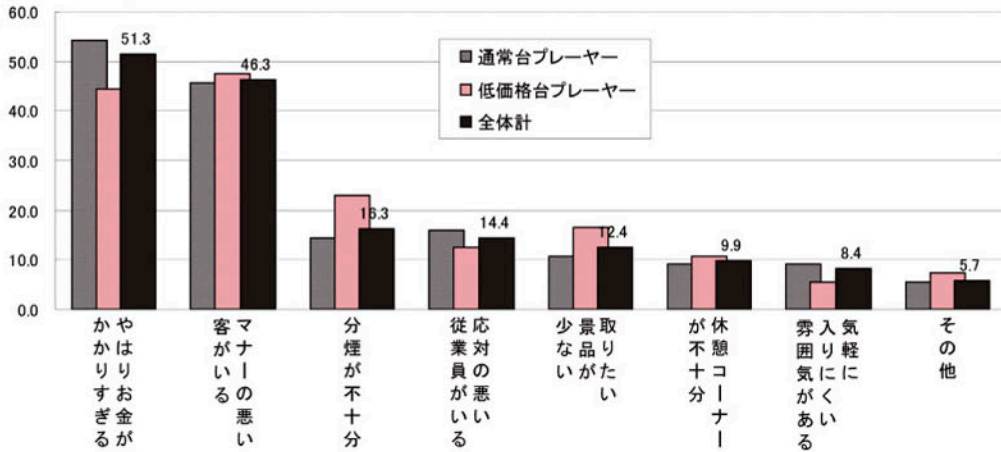


表11 ホールへの不満

今のホールは「安心して楽しめる状態」と見る人と「まだ不十分+どちらともいえない」と見る人はほぼ半々となっている。「不十分」の理由は「お金がかかりすぎる」「マナーの悪い客がいる」が2大要因。

「お金」と「マナー」に問題がある

表12 喫煙状況と全面禁煙化

非常に高い喫煙率
一般に比べて

ホールでの喫煙者率は61・7%と前年(64・8%)より減ったが来店者の過半数を占め、J-T調査の一般喫煙率(22%)に比べても格段に高い。ホールの全面禁煙化に対する見解では、賛否がほぼ拮抗しているが、賛成派に「分煙程度でよい」、反対派に「禁煙化もやむをえない」という意見が多く、互いに大人の対応へ向かっているように思われる。

喫煙の有無別「ホールの全面禁煙化に対する賛否」

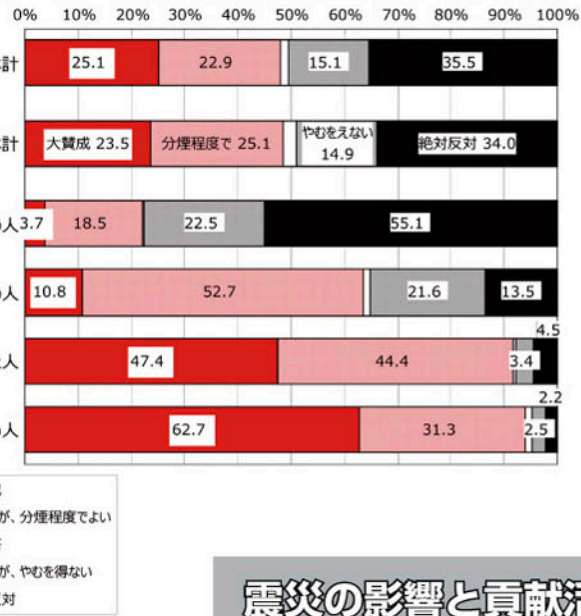
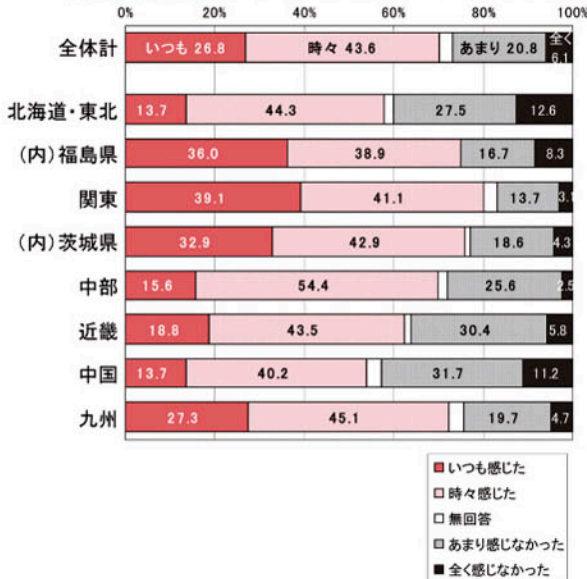


表13 震災の影響と貢献活動

社会貢献に7割が賛同

震災後、ホールが節電対策していると感じたか



震災後もプレーの頻度は変わらない人が大多数だが、増えた人は僅かで減った人が2割近くおり、客足に一定のマイナス影響を及ぼした。「減った」がとくに多いのは関東地域で27%だった。ホールの節電の取り組みは、全国どの地域でも「実感した」人が5割を超え、とくに関東地域では8割が実感した。このことから、節電への取り組みは大多数のファンに理解されたとみられる。義援金の拠出など業界の社会貢献活動には、ファンの7割近くが賛同した。個別の意見では「産業規模の大きさからして積極的に行うべき」45%、「業界のイメージアップのために行うべき」24%となっている。一方で、「まずはファンサービスに努めるべき」も24%あり、社会貢献とファンサービスの両立が期待されていると見られる。